

## ヨザン弥江子のデザインペイント① 「スポンジングによるぼかし技法」



2017年5月17日(水)

デザインペイントカフェ(東京都中央区)で行われた

**PXIペイントアカデミー ワークショップ**

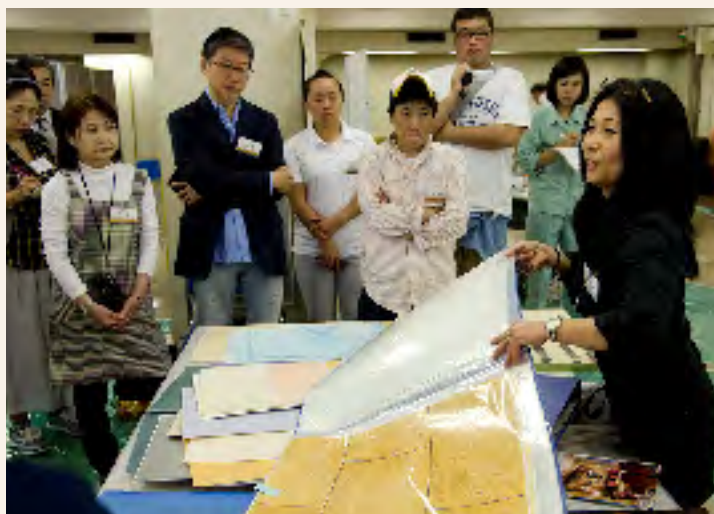
**<ヨザン弥江子のデザインペイント①**

**「スポンジングによるぼかし技法」>**

についてレポートいたします。

関西ペイントでは、内装ペイントの魅力を多くの方々に知っていただくため、PXIサイトを通じて様々なセミナー、情報・技術提供を行っております。2017年はさらに実践的な技術を学んでいただけるよう、大阪・東京それぞれ、デザインペイントのスペシャリストを講師にお招きし、シリーズでワークショップを開催しています。

東京開催分は、株式会社フォーアーツデザイン代表・ヨザン弥江子さんによるワークショップです。第1回目は「スポンジングによるぼかし技法」で、モルタル・サビ・緑青の表現について教えていただきました。



「モルタルはすごくベーシックで内装にも外装にも使える表現ですし、サビも緑青も私たちの分野では昔からあるスタンダードな仕上げで、壁や建具などいろいろなところに使います。これらはすべて同じ技法でスポンジ(海綿)を使って表現していきます」そう話された後、ヨザンさんはこれまでに手掛けてこられた現場写真やサンプルを見せながら、皆さんに仕上がりがイメージや手順を紹介されていました。



今回シリーズで開催するワークショップは、現場経験も豊富なペインターやインテリアコーディネーター、設計士の方など、いわばプロが対象のワークショップです。ヨザンさんはこうした方々に「私がこれまで蓄積してきた技術と知識をすべてお伝えして、塗装の素晴らしさをもっと広げたい、リーダーとしてどんどん活動していただきたいと思っています」と熱い思いを語っておられました。



「残念ながら現在の日本では、住宅や商業スペースの建築現場で、私たちはあくまで職人として、言われたものを塗るだけになっています。しかし、塗装の専門家がデザインペイントをやることで、そこからは表現者になれると思います」

表情をつくったり、あるいはアドバイスをしたり、ビジュアル的にこの方がいいとコンサルティングに近いことができる表現者を目指してほしいとヨザンさん。どう表現したかの理由を説明する裏付としてストーリーづくりが大切で、それこそが、他者との差別化につながる重要な条件だとヨザンさんは話されていました。

では、お客様に提案するサンプルをどのようにするのか。いよいよモルタル表現の実作業スタートです。

今回のワークショップでは、「日本ルナファーマーザー社」の塗装仕上げ用下地壁紙を使用して、作品づくりにチャレンジしていただきました。さすがに皆さんプロの方だけあって、細かく指導することなく作業スペースにはあっという間に養生が完成し、ベース塗装が仕上がっていきました。







続いて、準備したベース色にモルタルの表現を施します。ベースの色に白っぽい色と黒っぽい色を乗せ、3色のサンドイッチをつくった後に、ハケによるスパッタリングを加えていきます。

「ここで使った色はスケッチブックなどに色出しをして、マニュアルをつくっていくのが重要です。具体的に記録しておけば、容易に再現できます」とヨザンさん。現在までに手掛けた物件は、すべてファイリングされているそうです。

「すべてのポイントは、どう配るか、何の色を選択するか、これしかないです」

これまで何気なく見過ごしてきた様々な場所の色をこれからは注意深く観察しておく必要があります。



今回のワークショップのテーマ「スポンジングによるぼかし技法」で、もう一つ大切なポイントがスポンジ＝海綿の扱い方です。「スポンジが自分の手の一部のように感じられるようになれば、モルタルや緑青はもちろん、雲や絵まで



描けるようになれる」とヨザンさん。そうなるには、まず自分が手にした海綿の特長をよく知ること。どのような模様ができるかスケッチブックなどで叩いたり擦ったり、手の向きを変えるなどして何度もテストして、理解しておくことが重要だそうです。自分にしかできない模様やペイント柄を見つけ出せるようになれば、さらに個性的なデザインペイント表現につながります。皆さん日頃、ハケやローラーを使って塗装されているので、初めは少し苦心されていましたが、ほどなく扱い方にも慣れて、スポンジングを楽しまれていました。

モルタルの次は、サビと緑青の表現にチャレンジです。

「目指したい色というのは鉄さびでも赤や青、オレンジ色などいろいろあると思います。それをどの色にするかは、塗装する環境に何色のサビが合うかということをお自分で決めなければいけません。環境に合ったサビ色をコーディネートする力が大事です」とモルタルとの違いをあげながらサビと緑青のデモンストレーションを行うヨザンさん。

皆さんがそれぞれの場所に戻り作品づくりを進められている間も、ヨザンさんは皆さんからの質問に答えたり、いろいろなアドバイスを送っておられました。



ワークショップの終わりには、皆さんが完成させた作品を観ながらそれぞれの感想を伺い、ヨザンさんからも講評していただきました。

「日頃、現場ではベタ塗りで、ローラーやハケを使ってきれいに均一に仕上げるのが仕事という感覚ですが、そのイメージを捨てて下地を透かせたりボカしたりすることを意識しておかないと埋めることに一生懸命になってしまうので、日頃の感覚と違うところが難しく感じました」と塗装のプロならではの感想を述べられる参加者もいらっしゃいました。





同じ場所で同じようにレクチャーを受けたにもかかわらず、参加者の作品は個性が反映されて、まったく異なった表現になっていたのがとても印象的でした。技術的なアドバイスだけでなく、仕事として展開していくためのヒントやポイントなども丁寧にご指導いただいた今回のワークショップ。皆さんのこれからの健闘にヨザンさんも大いに期待され、修了書をお渡しして第一回目は閉会しました。第二回目は8月30日に開催予定です。東京・大阪とも、今後のワークショップにぜひご参加ください。お待ちしております！



\*今回のワークショップでご用意した  
塗装用具は皆様にお持ち帰りいただきました。